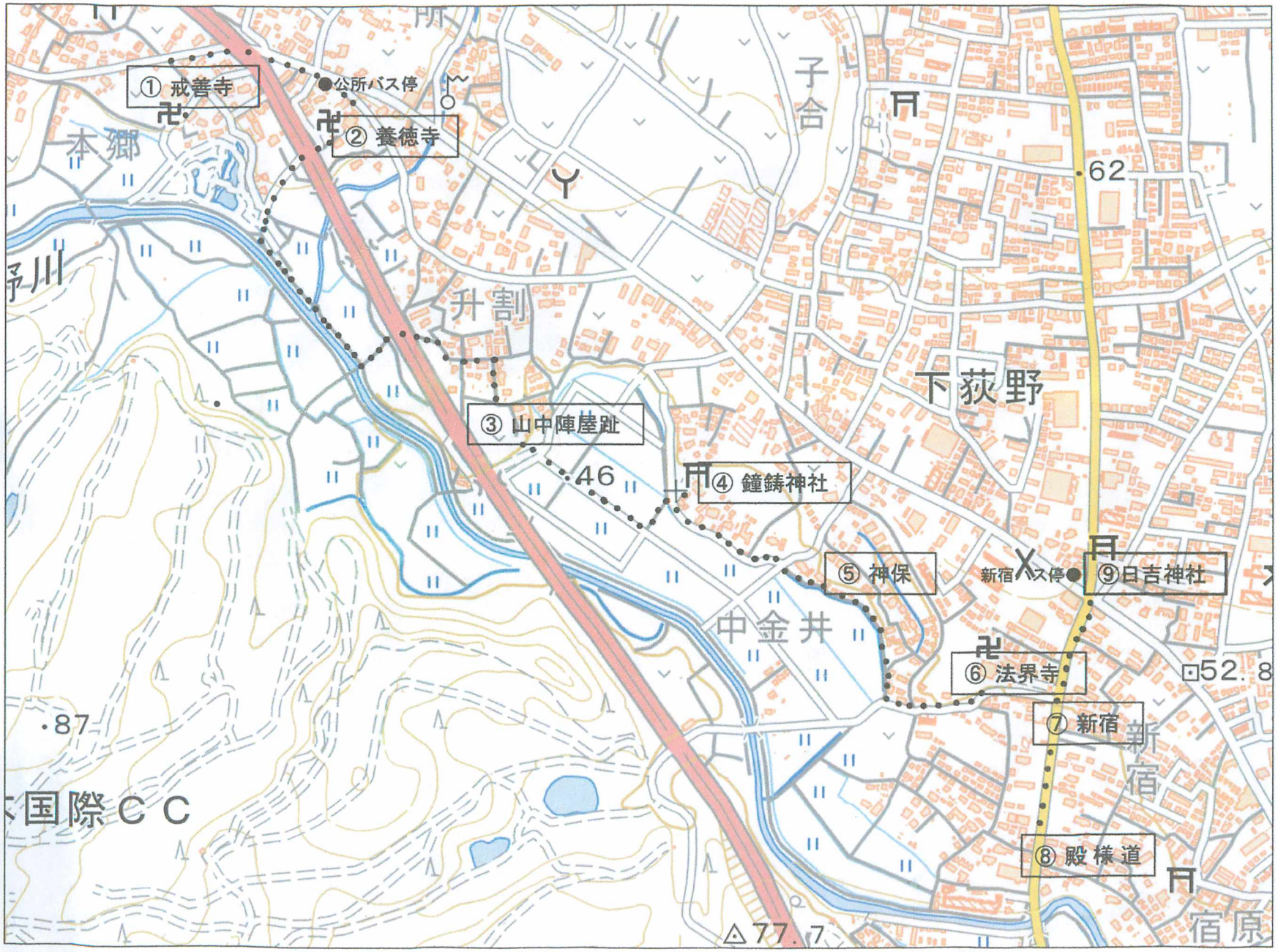
厚木市民文化祭
県史史談会　荻野方面史跡めぐり

令和６年11月３日（日・祝）



現地案内説明・資料作成　荻野の歴史を学ぶ会

①　戒善寺

1「満星山戒善寺」の紹介

・約１０００年前の平安時代末期に天台宗の寺院として草創された。

・文永８年（１２７１）日蓮大聖人が、依知に滞在のおり日源上人をお供に戒善寺釈迦堂に巡錫（僧が教化のため各地を巡り歩くこと）され、戒善寺の釈迦堂に安置された立像釈迦如来法華経を読まれ開眼された。戒善寺は、天台宗から日蓮宗に改宗され、日蓮大聖人を戒善寺の開祖とする。

・弘安５年（１２８２）に日源上人が現在地に一宇を築き新たに開山したので、日源上人を日蓮宗戒善寺の初祖とする。

・大涅槃図･･･安永２年（１７７３）２月１５日開眼供養。荻野の出身、狩野洞春美信門人の弟子難波洞雪藤原美明の描いたもの。洞雪は、絵師で下荻野新宿の生まれ、生没年不詳。

・平成９年（１９９７）本堂再建落慶式

2　山門前筆子碑

（1）戒善寺５２世日嚴（明治１０年(1877)没）の筆子碑

・正面歌碑「行先盤都江　ちかき花野可那」（行く先は　都へちかき　花野かな）辞世の句

・正面台座　「筆子中」

・明治８年(1875)筆子中及び１３人の世話人によって建立された。

・句碑裏面･･･１３人の世話人名（柳田為十郎、柳田富三、森甚太郎など）

・台石左側面２０名、右側面１３名、台石裏面６７名、計１００名の名前が刻まれている。

・『厚木市史』近世資料編３　には、寺子屋として記載されている。

（2）義方院日順尼　碑

・正面歌碑「辞世　八十翁義方尼　直に行みのりの道ハ針なれど　満かる心のいともかなしき　義方院日順尼　墓」

・台石正面に荻野村女性２７名、右側面に世話人天野政立ほか４名、台石左側面に上荻野村女性６名、台石裏面に飯山村など他地域の女性２５名（内男性２）、計６３名の名前が刻まれている。

・『戒善寺史』の中の「戒善寺過去帳記載の堂主」に「稲荷堂主　明治１５年（１８８２）１月６日　義方院日順尼　８０歳」の記述有り。中荻野本郷の稲荷神社には代々神社境内に庫裡のような建物があり、日順尼さんは毎日堂守としてお題目を上げたりしていた。そこに近所の女性が集まり一緒にお題目をあげたりして講中ができたのではないかと推測される。次の堂主の大貫妙縁さんについても「二十一日講」を行っていたという記録が残っている。

3　自由民権運動との関わり

（1）「自由民権の里」の記念碑（平成１６年に建立）

・明治１３年（１８８０）国会開設請願運動から始まった民権運動は、神奈川では厚木、厚木の中でも荻野が自由民権運動の中心であり、「自由民権の里」と呼ばれている。

・天野政立（１８５４～１９１７）「神奈川ノ政治ノ中心ハ愛甲郡デアッタ」の碑

政立は、荻野山中藩士の次男として生まれ、慶応３年１２月の荻野山中藩陣屋焼討事件

に遭遇した。国会開設請願運動に関わり、愛甲郡における自由民権運動の中心的な人物と物となった。「神奈川ノ政治ノ・・・・・」の碑は、明治３２年（１８８９）に戒善寺で政立が演説した一節。

（２）自由民権家の墓

① 大矢正夫（１８６３～１９２８）

明治１４年（１８８１）に荻野山中学校教員として赴任、森甚太郎の妹きくと結婚し中荻野本郷に住む。『大矢正夫自徐傳』が残されている。

② 難波春吉（１８６４～１９３０）

下荻野村に次男として生まれる。兄は愛甲郡の自由民権運動の中枢として活躍した難波惣平。朝鮮にて６７歳で没する。盟約に基づき戒善寺に葬られる。

③ 佐伯十三郎（１８５５～１８９５）

遠江国掛川藩生まれ。明治１７年山中学校教師に招かれ、下荻野に移り住む。大阪事件に関わる。後に朝鮮に渡り、４１歳で没する。盟約に基づき戒善寺に葬られる。

④ 松井日明（１８４４～１９１４）

戒善寺５３世住職。明治１４年荻野山中学校で加藤政福らと教員として子弟教育をしていた。明治１７年（１８８４）の大不況による地租軽減運動が展開された時、その活動の義損有志者の一人として名を連ねている。

⑤ 柳田富三（１８５１～１９２８）

中荻野に生まれる。明治１６年（１８８３）地元の民権学習グループ「講学会」に参加する。同年７月、板垣退助一行を招いて三田村の清源院で行われた自由党大懇親会では一行が柳田家に一泊している。自由党の資金援助の協力者だった。

⑥ 森甚太郎（１８５４～１９１６）

中荻野に生まれる。安政元年（１８７９）荻野山中学校世話役から村会議員、荻野村村長、

愛川村村長などを歴任し地方自治に貢献。自由党の構成員だった。

４ 土屋豊前守の墓

土屋豊前守は、戦国時代に荻野あたりを治めていた松田康長の下で代官（君主ないし領主に代わってその土地の事務を行う地位）をつとめていた。その人の屋敷が中荻野にあったという記録が残っている。

この墓は江戸時代に子孫によって再建立されたもの。

５ 学童疎開児童の受け入れ

戦争末期、村内の他の寺院とともに、横須賀市衣笠国民学校児童の集団学童疎開を受け入れた。

②　養徳寺

宗派は臨済宗（鎌倉円覚寺末）で山号は百丈山、本尊は虚空蔵菩薩。

現在の和尚は十四世中興大謙秀雅和尚。令和元年（２０１９）寺社を復興し、中興開山となる。

弘仁５年（８１４）叡山の行脚僧に船着場に留まることを村人が乞い、定朝派作「虚空蔵菩薩」を祀り「船曳山　養徳寺」とする。『新編相模国風土記稿』は「古は村民の内庵なり」という伝承を記している。

永和２年（１３７６）、大本山円覚寺（鎌倉幕府 北条時宗公 開基）より長老主座 舟菴禅竜和尚来荻、養徳寺住職となり開創。その後荒廃したが、二世心外悦和尚（寛文４年（１６６４）７月没）が中興。慶安２年（１６４９）地域貢献に対して江戸幕府（徳川家光公）より寺領五石九斗の御朱印を与えられる。慶安３年（１６５０）１０月１０日、深夜、鳶尾山頂に「金毘羅子世羅」が心外悦和尚の前に現れ地域の疫病を封じたことで鳶尾山金毘羅神社」が建立される。

さらに寛政８年（１７９６）に六世僧梅岩（宝暦６年６月没）が中興した。

その後天保７年（１８３６）祝融（火災）に罹り、殆どが廃滅の状態になったが、同14年（１８４３）に十一世僧実岩、良円等訪ねて堂舎を再興した。

江戸時代末期（１８０年～２００年前）洪水被害により現在地に移転し「百丈山 養徳寺」とする。

当寺には天明７年（１７８７）島崎源内義隆筆の三福対の釈迦文殊普賢十八羅漢図、弘化３年（１８４６）井上五川筆の涅槃図（現在、あつぎ郷土博物館）が蔵されている。天野家（民権家天野政立実家）は檀家で、政立が建立した父俊長（荻野山中藩御典医）が眠る墓地がある。(『新編相模国風土記稿』『愛甲郡制誌』『厚木市史資料集』（２）厚木の歴史探訪４『寺院』など)

現在、養徳寺には念佛講があり春、秋彼岸を除き毎月行っている。ただし４月８日（お釈迦様誕生）と10月10日（金毘羅さん記念日）は必ずお念仏日とする。

（左幅）

（中幅）

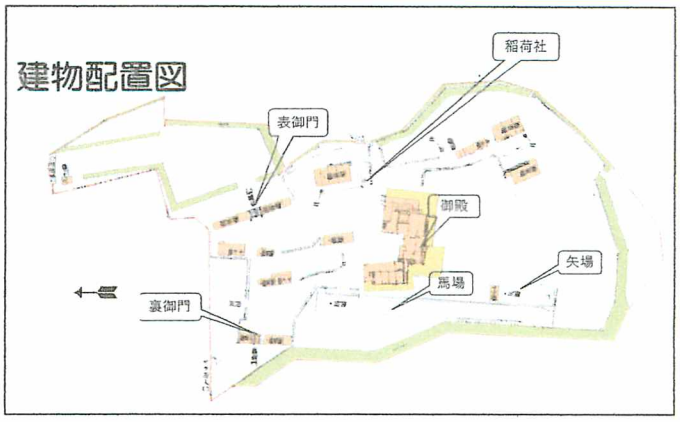
（右幅）

島崎旦良
釈迦三尊十八羅漢図（養徳寺所蔵）
縦９４cm、横５４cm

井上五川
涅槃図（養徳寺所蔵）
縦２０２cm、横１２３cm
（厚木市ホームページより転写）

③　山中陣屋跡史跡公園

荻野山中藩大久保出雲守の陣屋の所在地だった。荻野山中藩は石高１万３千石の小藩で、天明四年（１７８４）に陣屋を駿河国（現静岡県）から荻野の地に移し、約８０年間にわたって藩庁（御役所）を置いた。



陣屋は、周囲の水田より一段高い半島状に突き出た低台地に位置し、広さは約 1.5 ヘクタール程で、寛政三年（１７９１）に描かれた絵図面によると、中央には御殿が設けられ、ほかに家臣の長屋、馬場、矢場、稲荷社（現存）、湧水、井戸、物置などがあり、明治元年（１８６８）には藩校「興譲館」（荻野小学校の前身）を開設した。

この陣屋は慶応三年（１８６７）１２月、薩摩藩浪士など倒幕過激派により焼討ちされ、多くの建物が焼失した。この焼討ちは翌年の鳥羽伏見の戦いに始まる戊辰戦争の遠因となる大事件だった。

明治四年（１８７１）廃藩置県により荻野山中藩領は荻野山中県となり、短期間でしたがこの地に県庁が置かれた。

史跡跡に立つ記念碑は昭和八年（１９３３）建立されたもので、碑文には「山中城址」と彫られている。

④　鐘鋳神社

創立　新編相模国風土記稿によれば、寛永六年（１６２９）に村民難波富右衛門が本国下総（千葉県）の原社を勧請したという。また地名の中金井について「古は金鋳と書し、上中下に分け唱へしなり、此所は鋳工銅銕を鋳し地にて、今も地中より銕屑でると云」 と記されている。鋳物師が活動していたことを窺わせ、当社の「鐘鋳」の社名はこれに因んでいる。

御神体　銅製の男神立像。

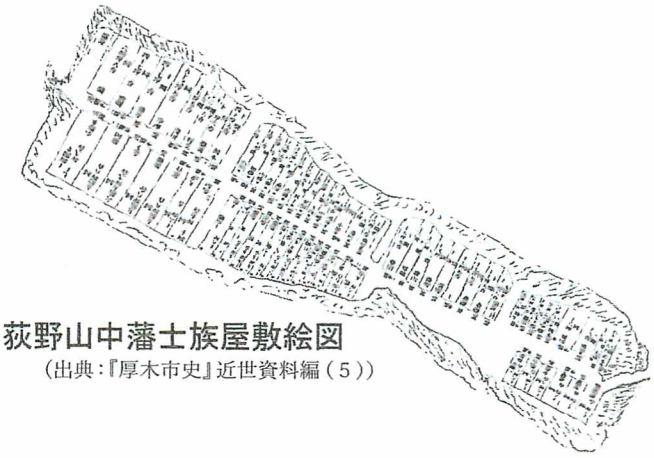
祭神　日本招古皇統弥照尊（やまとねこすめらつぎいやてるみこと）

俗称に妙見社といい、妙見宮額（戒善寺住職日遂書）を掲げる。これは、当社を勧請した難波一族に日蓮宗徒が多く、北斗信仰が日蓮宗と関係が深いことに起因するのかもしれない。

⑤　神保

荻野山中藩の藩士の大部分は江戸藩邸住まいだった。明治元年、下荻野神保の地に下屋敷を新たに設け、版籍奉還・廃藩置県により、江戸藩邸から移り住んだ藩士等がここに士族屋敷を構えた。

右記絵図では６４区画



荻野山中藩士族屋敷絵図
（出典：『厚木市史』近世資料編（５））

⑥　法界寺（浄土宗）

創建　小田原城主北条氏直が家臣松田右兵衛大夫康長に命じて、御代官土屋豊前守を開基、広蓮社覚誉宗公大和尚を開山として天正十三年（１５８５）に創建した。豊臣秀吉の小田原攻めに際して兵火により焼失したが、その後土屋豊前守（慶長五年 1600 年卒、法名桂山源秀）が中興開基となり、覺譽（寛永二年 1625 年卒）が中興開山した。

本尊は阿弥陀仏（源信僧都作と云う。）

慶安二年（１６４９）に江戸幕府より高１０石の御朱印状を下賜。

本寺は度々災禍に見舞われ、現在の本堂は天保１５年（１８４４）に建築されたものをその後改築した。

境内西側奥にはかつてこの地で活躍した鋳物師木村氏一族代々の墓がある。

本堂横の奉安の白衣観音（平和観音）は、世界平和と戦没者の冥福を祈り、郷土出身の小林進氏が建立した（作者は日展審査会理事小森邦夫）。

荻野は明治時代前半、自由民権活動が盛んな場所だった。下荻野新宿は民権活動の中心となった地で、法界寺も民権の学習会である愛甲講学会の会場にとなるなど活動拠点の一つだった。

明治三十九年（１９０６）に法界寺内に愛甲郡立農業補修学校（現在の県立中央農業高校の前身）が創立された。

昭和十九年（１９４４）には横須賀市衣笠国民学校児童の学童疎開先の一つとなった。

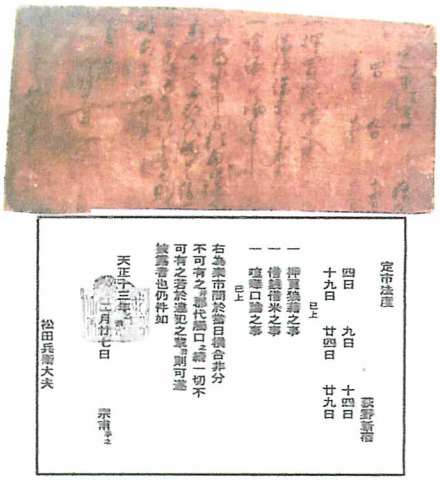
⑦　新宿

下荻野新宿は、甲斐国から厚木へと通じる甲州道と八王子方面から小田原へ抜ける小田原道が交わり、北条氏の居城小田原と武蔵・上野・下野等にある諸城を結ぶ通り筋にあたる要衝の地であることから北条氏はここに新しく宿駅を整備した（【新編相模国風土紀稿】には、「天文（１５３２―１５５５）の頃、子合（こあい）・公所両所の民ここに移りしより新宿と呼ぶ」とある）。

永禄十二年（１５６９）の三増合戦の時に北条氏康親子が新宿まで出馬したとの記録がある（「小田原記」「甲陽軍艦」）。

天正十三年（１５８５）２月には、宿に付随する形で市場を開設した。この時与えられた市場開設の制札（定市法度）が今も現存している。

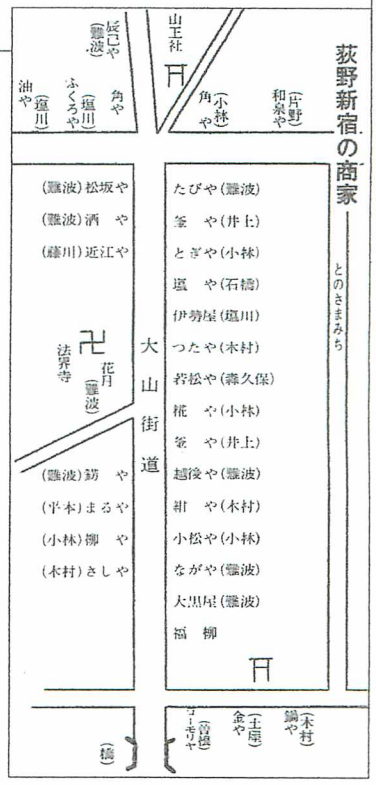
四年後の天正十七年（１５８８）九月には馬市開設の法度も発せられ、また近在の鋳物鍛冶に鉄砲等の武器製造を命ずる記録が見られることから、荻野新宿は北条氏の関東出兵の足掛かりにはうってつけの場所に位置し、出兵に必要な物資を補給する場としての機能も期待できる経済・軍事の拠点でもあったことがうかがえる。



北条氏制札（あつぎ郷土博物館所蔵）

徳川治世下になっても荻野新宿の市は賑わいましたが、寛文四年（１６６４）に大火が起こり、宿通りの大部分が焼失し市場は中絶状態となってしまった。市によって賑わっていた荻野新宿が衰微していく姿を嘆いた土地の人々は、正徳三年（１７１３）に幕府へ市場再開の嘆願を行い、翌年許可を得て市場を再興した。

やがて厚木が物資の集散地として荻野を凌ぐ賑わいとなり、荻野の市は衰微していったが、江戸時代中期以降、関東一円の庶民が講中を組織して一路相州大山へと参詣に向かう大山詣が隆盛になるに伴い、荻野新宿は府中・八王子・甲州方面からの大山道が集まる宿場として賑わいを見せるようになった。当時、主要街道を除く道の多くは幅1～1間半（１．８m～２．７m）でしたが、八王子道（大山道）と甲州道の交差点から南の荻野川までの３００mほどの区間は両側に側溝を持つ幅６間（約１１m）ほどの道路で、両側に旅籠屋や茶屋などが立ち並んでいた。現在も古くからある家々は宿場の名残を留める屋号で呼ばれている。



⑧　殿様道

参勤交代は、一ヶ年交替で江戸と自分の領地を往復するのが原則ですが、荻野山中藩の場合には半年ごとに交代することを許されており、そのため行きと帰りに年二回殿様が通行した。この参勤交代の時に往来した道の一部が「殿様道」と呼ばれています。どうして、ここだけを殿様道というのか、はっきりしていません。

参勤交代の折、中・下荻野村、三田村、妻田村の名主は途中まで送り迎えをし、また、領内の殿様が通る道筋は当日、火を燃やさず、民家は前後・当日ともに昼も夜も戸を開けておき、殿様が通る時は、女性は床の上に手をついていてもよかったが男性は土間におりて土下座することになっていた。

なお、天明七年（１７８７）の発駕行列帳によると、荻野山中藩は一万三千石の小藩ながら参勤にあたっては百名を超える堂々たる行列を組んでいた様子が見て取れる。

殿様道沿には北条時代から江戸時代に活躍した鋳物師木村氏一族が居住していた（現在も子孫が居住し、法界寺には木村一族代々の墓地があります）。

⑨　日吉神社

創立年月不詳。

御神体は帝釈天の像がある懸仏、慶安元年（１６４８）の銘がある。

祭神　大山咋命（おおやまくいのみこと）

もとは山王大権現と称したが明治三年に今の社号に改めた。

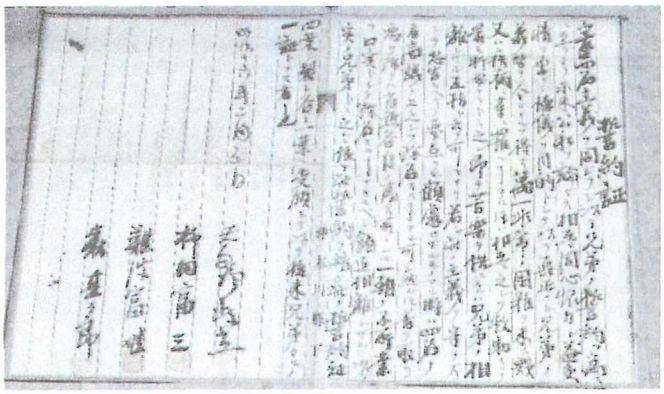
境内には芭蕉句碑が２基ある。

・旅人と我名呼はれん初時雨　　建立年不明

・ほと丶きすまねくか麦のむら尾花　　安永三年（１７７４）建立

建立社は麦穂庵村水、本名小林忠七

⑩ 自由民権運動



自由民権百二十周年建碑除幕式

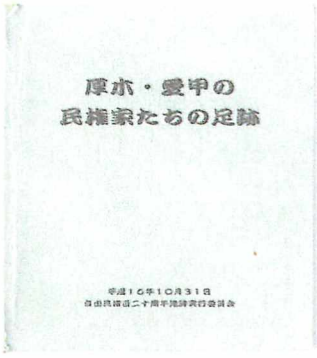
平成 16 年(2004)10 月 31 日に参加者の中荻野本郷の難波愛子さん（左難波富雄の子孫）蔵

兄弟の誓約証

天野政立・柳田富三・難波富雄
森甚太郎

柳田家は明治１６年７月清源院での演説会後自由党**板垣総理の宿**となり、村中の女性が宿に押し寄せる

除幕式



編集　内藤佳康さん

国会開設請願は相模九郡を団結して分離すべからざるものとす　明治１３年(1880)４月江の島での懇親会決議　この会に愛甲郡から**難波惣平と天野政立**が参加

相愛社と愛甲講学会 明治１５年（１８８２）２月厚木で創立懇親会を開催した民権結社相愛社は、会長黒田黙耳、副会長霜島久円、幹事難波惣平、神崎正蔵、弁士接待天野政立などが役員でした。懇親会の参会者は千三百人ほどでした。相愛社は、荻野新宿の**法界寺**で**愛甲講学会**を明治１６年１月に開き１７町村から８０名余の参加者があり、上中下荻野で３０名余が参加、農閑期の１７年２月まで開催されました。

午前7時　～　8時	『通俗民権論(福沢諭吉著)』
午前8時　～　9時	『利　　学(Ｊ・Ｓ．ミル)』
午前9時半～10時半	『経済学(Ｍ・Ｇ．ホーセット
午後7時　～　8時	『通俗民権論(福沢諭吉著)』
午後8時　～　9時	『立法論綱』(J.ベンサム）』

明治 17 年 9 月規約書　「今や吾々農民は殆と名状すべからさる苦境に陥(おちい)り国民最大の義務たる租税を払ふにも尚困難を極めに至れり（中略）見よ物価は頓(とみ)に低落し紙幣は著しき騰貴を来たし両三年前に比すれは農民は二倍以上の納税を（中略）今日に於て救済法はただ**租税の減額を請願**するの一途あるを信するのみ。」荻野新宿(難波宗一郎家蔵)

明治 17 年 5 月 15 日の自由新聞に　民権田母野秀顕獄死への義捐金を**難波こう、難波せい**(2 人は難波惣平の妹)、**内海くら、柳田うめ、三角ギン**が出捐が掲載　**愛甲婦女協会創立**とも関連が伺われる